

どんな時にも図書館サービスを継続するためのデジタル技術

この原稿は、講演のためのアイデアメモです。

当日は、これらのキーワードを念頭に「どんな時にも図書館サービスを継続するためのデジタル技術」について俯瞰的に検討したいと思います。

カーリル 代表取締役・エンジニア 吉本龍司

- カーリルの動き（COVID-19：これまで）
 - 対応方針の明確化
 - 休館状況の悉皆調査
 - キャッシュOPACの提供（知りたい！を止めない）
 - 学校図書館支援プログラム
 - ポスターデータのCC公開
- できたこと、できること
 - 検索サービスの維持
 - クラウドサービスの活用
 - 電子リソースの提供
 - オンラインイベント
 - 新聞データベースなどジャーナリズムへのアクセス
- できるひと、できないひと
 - 図書館総合展の取り組みから
 - これまで参加できない人がたくさん参加できた
 - ウェブアクセシビリティの進歩
 - 身体的なデジタルデバイドへの対応
 - 高齢者は使えないの“嘘”
 - 社会的なデジタルデバイドへの対応
 - 環境とリテラシー
 - 労働環境の問題
 - 「i-フィルター」問題
 - リモートワークとテレワーク
 - 学校がWeb-OPACを提供できなかった理由
 - 家庭にインターネットがない児童生徒がいるため、公平性が保てない（学校長）
 - ICTに対応できる司書と、できない司書がいるのでできない（教育委員会）
 - わからないけど、不安（教育委員会）
 - 抑制的な平等をなくす

- どんな時も図書館サービスをつづける
 - 誰に対してサービスをするのか
 - インフラとしての責任
 - 今使ってくれている利用者に向けて
 - 地域の人々に向けて
 - 全国・世界に向けて
 - 将来の住民に向けたサービス
 - 地域リポジトリの重要性
 - デジタルアーカイブは今をどう扱うか
 - 図書館総合展 ONLINE を見る
 - 0歳から18歳をどうアーカイブするか
 - デジタルのほうが捨てやすい
 - 消えるデジタルアーカイブ
 - オープンデータ化（カーリルの場合はオープンソース）
 - 相互監査の必要性
- 次に何をすべきか（COVID-19：これから）
 - ゆるくつながる、かるいしくみ
 - 複数の図書館サービスレイヤーを重ねる
 - より広い資料へのアクセス性の確保（言語の分断を乗り越える）
 - 電子書籍の相互貸借
 - 海外の資料へのアクセス
 - インターネットアーカイブ
 - プロトコルをつくる = 知識を共有する
 - そのための連携